

「虹の森」 通信

6月号 第32号

発行日 : 2019年5月20日

発行 : 虹技株式会社

環境安全管理部 環境管理G

姫路市大津区勘兵衛町4丁目1

TEL 079-236-3224

やっぱい

温暖化してますね、この暑さは春じゃない。なんかもう、極端なんですよ。ついこの間まで、朝晩はまだまだ冷えるね～なんて言ってたのに。夜だってもう暑いですよ。春と秋が短くなってませんか！？というわけで、タイトルバックはまるで真夏のビッグウェーブのような形をしたマムシグサのアップです。波がしらの巻き具合が素敵でしょう。見方によってはあの北斎の浮世絵のようにも見え、その葉っぱは里芋のズイキに似ています。茎がマムシっぽい模様なので、この名前がついています。マムシグサは、日本全国に生息し、明るい森林内のやや湿った場所を好むサトイモ科の多年草です。サトイモ科なので球根も立派で、秋に熟する実はトウモロコシっぽいきれいなオレンジ色。いかにも食べれそうなのですが、芋も実もとんでもなく不味く、超激的な刺激があるそうなんです。ネットで調べると、なぜかこの実と芋を食しようとチャレンジしたブロガーがいっぱいいます。どれを読んでも笑っちゃうのですが、皆さんはくれぐれもマネしないでくださいね。ネットで見て笑うだけにしましょうね。

次に紹介するのは、ラン科のエビネです。エビネ



はカラフルに品種改良された園芸種もありますが、こちらはもちろん日本に古来からある自生の野生種。野生とはいえ、さすがにランの仲間、姿かたちが整っていて美しいですね。名前の由来は、数珠つなぎに増える球根を掘り上げてつかむとエビのように見えることから来ていて、「エビのような根っこ」でエビネというわけです。華麗な姿のわりに意外ともっちゃりした由来ですね。

この白い花は、野山でよく見かける落葉低木のコバノガマズミです。秋になると美しく紅葉し、赤い実



をつけます。こちらは、先ほどのマムシグサとは違い、甘酸っぱくてとても美味しいので、果実なんかにするとベリーグッド。ガマズミの名前の由来は、「神つ実」。神様にお供えする実という意味でしょうかね、それほど貴重でうまかったということかな。そのガマズミよりちょっと葉っぱが小さいので（実際はほとんど区別が付き難いらしい）、小葉（コバ）のガマズミです。

まあ、先ほどのマムシグサの実は神様にお供えはできませんわな。神様が怒って、暴れだしちゃったら大変なもの。

環境爺(びびい)のつぶやきコラム



ぶつぶつ

さて今回は、ビオトープについてつぶやいてやろう。最近はとんと聞かなくなった気がするんじゃが、一時流行った時期があつての。ちょっとすかした企業や、公の施設がこぞってビオトープを作って自慢したもんじゃ。ところが今は、維持管理が面倒になってその大半は荒れ放題じゃなかろうかな。そもそもが、ビオトープと称した当時の流行で作った水のある庭は、考え方がおかしいと言うか見当違いのものが散見されるの。果てには園芸好きが睡蓮の鉢植えにメダカを泳がせてビオトープだと豪語したり、熱帯魚好きが水槽内での自然循環を指してビオトープじゃとのたもうたりしとおる。

違ふんじゃ違ふんじゃ！

ビオトープってのは趣味の園芸やアクアリウム、箱庭なんかとは根本的に違ふんじゃ。そこんところをつぶやいて進ぜよう。



ビオトープってのはな、ドイツで生まれた考え方な、もともとは生物学の専門用語じゃった。意味は、「生物が生息するエリア・空間」のことじゃ。ドイツ生まれのくせに、語源はギリシャ語の「ビオ」が生物、「トープ」が場所じゃ。ちなみに「ビオ」と対になるのが「ゲオ」で、生物以外のもの、つまり母なる大地、地球のことじゃ。貸ビデオ屋の屋号じゃないぞ。「ビオ」は英語ではバイオになっていて、「ゲオ」はジオじゃ。奇岩公園なんかをジオパークなん

て言ったりするじゃろ。あれじゃよ、あれ。さらに言うと、「ビオ」と「ゲオ」を合わせた考え方を「エコ」というんじゃ。

生物が生息するエリアなら、箱庭だって水槽だって睡蓮鉢だってそうだろうってな。いや、そりゃそうなんじゃが、そこはそれ、学術用語には一定の決まりがあるんじゃ。まずは最初に、人が手を入れて自然空間を人工的に作ったとしても、それが自立して持続可能であるかどうか重要なポイントじゃ。水を替えたりエサやりの必要があるってのはビオトープと



は呼ばん。さらに、その地域に昔から住んでいる種が変わらず豊かに生育をしているという点も大事なところじゃ。地域外の種、ましてや外来種が生育している場所などビオトープとは言い難い。

小学校なんかでメダカとホテイアオイを放り込んだ池をビオトープなんて言ったりするが、絶滅危惧種のメダカが地域のメダカかどうか怪しいし、よく似たカダヤシという外来種だったりする。そもそもホテイアオイは有害外来種でっせ。

ビオトープがいつ日本にやってきたかは知らんが、かつて土木屋が土地の乱開発で生態系を壊してしまったことをかえりみて考えついたらんじゃろうな。その反省を踏まえて、奴らは「土地開発をする際には生物環境を考えよう。壊した生態系をちょっとは元に戻そう。」なんて思ったんじゃ。

それで、最初は自然環境の復元事業のことをかっこつけてビオトープと呼んだんじゃ。それがいつの間にやら企業の敷地内にある池や、小学校の池なんかをビオトープと呼び始め、果ては家の庭やらベランダの箱庭までもビオトープと呼び、園芸店ではビオトープセットなる水草栽培キットまで売られとる。

もう一回、言っておくぞ！ ビオトープはひとつの学問（学術用語）じゃ。何度も言うが、意味は「生物が生息するエリア・空間」のこと。お前さんたちは、具体的にどんな場所だと考えとるかな。ちょっと頭をひねってみておくれ。

正解はいくらもあるんじゃ。例えばその一つ、昔の農家が作り出した田園。田畑に水路があり里山があるエリアじゃ。そこには人の営みが生物多様性を生み出し豊かな自然があふれていた。あるいは、干潟。そこでは多くの生物がすみ、水鳥たちにとって、なくてはならない楽園じゃ。他にも、溪谷と河原。魚、虫、草、コケの楽園じゃ。別に水がなくてもいいんじゃよ、アルプスの山岳地帯にだって、砂漠地帯にだってビオトープはあるじゃろう。



テレビでは、平成の終わりにジブリ作品「平成狸合戦ぽんぽこ」が記念として放映されておったが、あれこそまさにビオトープの危機を描いた映画じゃ。あそこに出てくる話が、ビオトープのことなんじゃ。

昔、神戸の西灘の、とあるマンションの屋上で山の植物を栽培し、竹まで植えて、六甲山から様々な生き物が飛来し、住み着いた場所があった。グーグルマップで見ると今はすっかり影も形もなくなっちゃったようじゃが、あれはまさにビオトープじゃった。

神奈川県三浦半島の先っちょに小網代（こあじろ）という場所があるんじゃ。そこは、かつて農村と共

にある平凡な里山じゃったが、農家はいなくなり自然が本来の姿に戻ろうとしていた時、たまたまその場所に大規模リゾート開発が計画されたが丸ごと手つかずじゃった。なぜならそこが山あり、川あり、海あり、湿地ありのすべてそろった奇跡的に豊かな自然環



境を生んだからじゃ。その状況は世界の生態学のトップの学者たちを驚愕させたんじゃ。そしてこの奇跡を知った人たちが駆けずり回って小網代の保護を関係者に説いて回り、市民団体を発足、企業や行政を動かし、保護することに成功したんじゃ。

20年前の調査では2000種もの生物がいるとわかり、今はその倍はいると言われておる。

これぞ、日本の誇るべきビオトープじゃ。



でもな、虹技にも立派なビオトープがあるぞ。そう、虹の森じゃ。ゆめさきの森公園全体もビオトープと言って良いじゃろう。手つかずの自然じゃビオトープにはならんし、手をかけすぎてもこれまたビオトープとはならん。公園に携わる職員さんらやボランティアのみんなも大変じゃ。これからも、森林整備を続けて、豊かな生態系を維持する活動を続けていければのお。

★虹技のジビエ模擬店★

シカ焼肉丼・シシ焼肉丼 リピーター続出

GWの5月4日に開催されたゆめさきの森新緑まつりに、今回も模擬店を出しました。いろいろと検討を重ね、今回は少～し値上げし、その代わりにメインの肉と具の量を多めにして挑んでみました。価格



設定って難しいですね。お客さんにちょっと戸惑いがあったかな。でも、来場者の話し声を聞いていると、「シカ丼を食べに来た」とか、「なかなかうまいんだよね」とか噂されている。提供数も、前回のレコードには届きませんでした。166食を記録し、味の評価も上々といったところです。でも今回は、頼みのベテランメンバーが欠けたので、段取りに手間取ってしまい、臨戦態勢に入る前にもうお客さんが来てしまい、テントの中はてんでご舞い。メンバーが連れてきた子供たちも兵隊として大活躍。ところが、お昼が近付くにつれて、混乱の振れ幅が大きくなり収まりきらず、肝心のお昼には、なんと販売一時停止を

高らかに宣言してしまうという始末。どんぶり屋さんがお昼に看板を下げるなんて、暴徒が出るかとビビりましたが、お客さんはみんな紳士淑女で何事も起こりませんでした（ホッと）。そして運営のみんなで昼食休憩をとり、テント内の立て直しを図って30分後には営業再開。しかしながら、その間ライバル店のカレーと焼きそばにやられてしまったかも。



やっぱり、仕事は段取り八分ですね。そうそう、虹技のシイタケがまだ少し収穫されずに残っていたものを鉄蓋鉄板で焼きました。塩コショウで食べても、焼き肉のタレで食べても美味でした。ごちそうさま。これで春のシイタケは完了いたしました。次に、シイタケができるのは秋の予定です。そうか、秋の模擬店にはシイタケを焼いて売るってのもありかもね。いろいろと試行錯誤して進化させたいと思います。

第47回 森林整備の案内と参加者募集

あっという間に、夏に突入しました。次回の森林整備は公園ボランティアグループ「ゆめもりクラブ」との共同作業です。作業内容は、稜線遊歩道の整備となる予定。軽い登山を楽しんで作業をします。子供たちは管理棟の前の小川で川遊びを楽しんでね。

日時： 6月8日（土） 10：00～15：00（9：30公園駐車場集合）

場所： 県立ゆめさきの森公園（虹の森）

申し込み： 参加希望者は、環境管理G 的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。

的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。

初めて参加される方は、保険に加入しますのでお名前、住所、ケータイ番号を連絡ください。

※小雨は決行。天候が荒れそうな場合は前日夕方に、中止のメールを携帯に送信いたします。